

SHINAGAWA CITY DISCLOSURE

品川区の経営状況
2023
(令和5年)

品川区企画部財政課

品川区の財政状況

普通会計とは

各地方公共団体が設けている会計区分の範囲が異なるため、財政比較等を行うために、国が定めた統一基準に従い作成した会計区分を「普通会計」といいます。（「普通会計」＝公営事業会計以外の会計のことで品川区では一般会計と災害復旧特別会計の合計が普通会計になります。）

※品川区における公営事業会計は、4会計

- (1)国民健康保険事業会計、(2)後期高齢者医療事業会計
- (3)介護保険事業会計（保険事業勘定とサービス事業勘定に分類される）
- (4)公営企業会計（介護サービス事業）

普通会計決算収支

（単位：千円、％）

区 分	令和4年度	令和3年度	増減額	増減率
1 歳入総額	195,518,418	193,464,347	2,054,071	1.1
2 歳出総額	188,940,434	186,459,178	2,481,256	1.3
3 形式収支（1－2）	6,577,984	7,005,169	△ 427,185	△ 6.1
4 翌年度へ繰越すべき財源	317,203	61,363	255,840	416.9
5 実質収支額（3－4）	6,260,781	6,943,806	△ 683,025	△ 9.8
6 単年度収支	△ 683,025	3,438,321	△ 4,121,346	－
7 積立金	2,332,923	5,650,180	△ 3,317,257	△ 58.7
8 繰上償還金	0	0	0	－
9 積立金取崩し額	0	0	0	－
実質単年度収支（6＋7＋8－9）	1,649,898	9,088,501	△ 7,438,603	－

主な財政指標の状況

区 分	令和4年度	令和3年度	比 較	23区平均
実 質 収 支 比 率	% 5.7	% 6.4	ポイント △ 0.7	% 7.2
経 常 収 支 比 率	74.8	74.8	0.0	76.7
人 件 費 比 率	13.4	13.5	△ 0.1	13.7
地 方 債 現 在 高	千円 11,958,043	千円 11,121,262	% 7.5	192億円
特 定 目 的 基 金 高 現 在	95,953,974	91,437,051	4.9	1,078億円

○実質収支比率は5.7％で、前年度に比べ、0.7ポイントの増となりました。（概ね3～5％程度の黒字が適度）

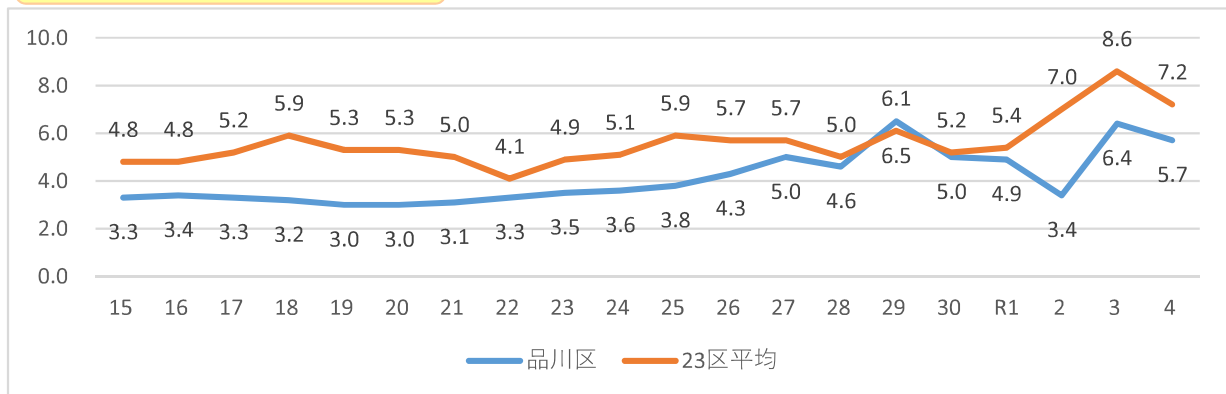
○経常収支比率は、前年度と同じ74.8％となりました。（適正範囲70～80％）

○人件費比率は、歳出総額の増加により、13.4％となりました。

○基金現在高は960億円で、前年度と比べて、46億円、4.9％の増となりました。

実質収支比率の推移

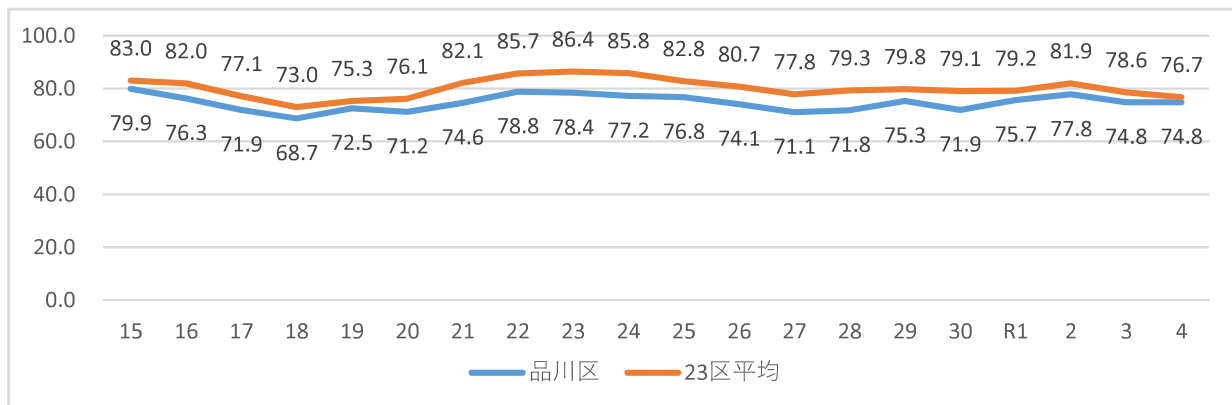
$$\text{実質収支比率} = \frac{\text{実質収支額（歳入決算額－歳出決算額－翌年度繰越財源）}}{\text{標準財政規模}}$$



○実質収支比率は、標準財政規模に対する実質収支額の割合を示すものです。
品川区は、昭和53年度以降、45年連続で黒字となっています。

経常収支比率の推移

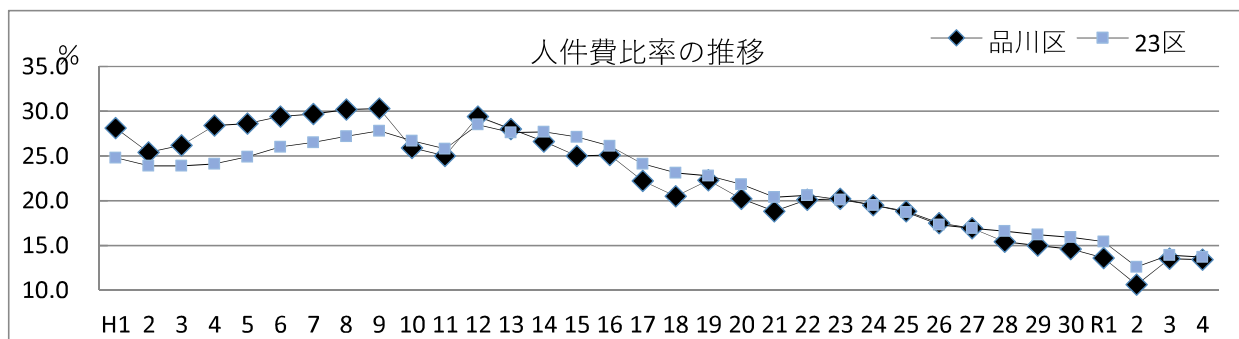
$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常的経費充当一般財源等}}{\text{経常一般財源等}}$$



○経常収支比率は、財政の硬直化の度合いを示す指標で、人件費・扶助費・公債費などの経常経費に充当される一般財源が、区税など経常的に収入される一般財源に対し、どの程度の割合にあるかを示すものです。この値が高すぎると、臨時的経費や投資的経費などの新たな施策を実施することが難しくなります。

人件費比率の推移

$$\text{人件費比率} = \frac{\text{人件費}}{\text{歳出総額}}$$



○人件費比率は、歳出に占める人件費の割合です。分母となる歳出総額の増減により比率が変動します。人件費には、職員給与費のほか、議員報酬・非常勤職員を含む委員報酬・共済組合負担金および退職手当・特別職給与等が含まれています。

地方債

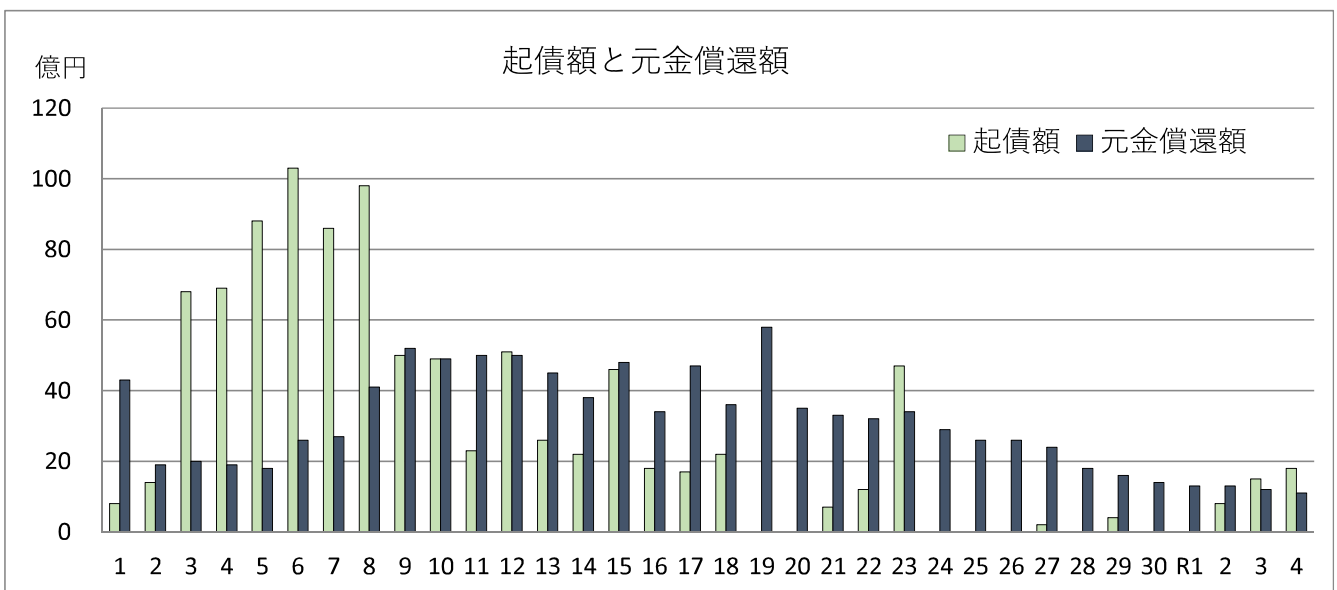
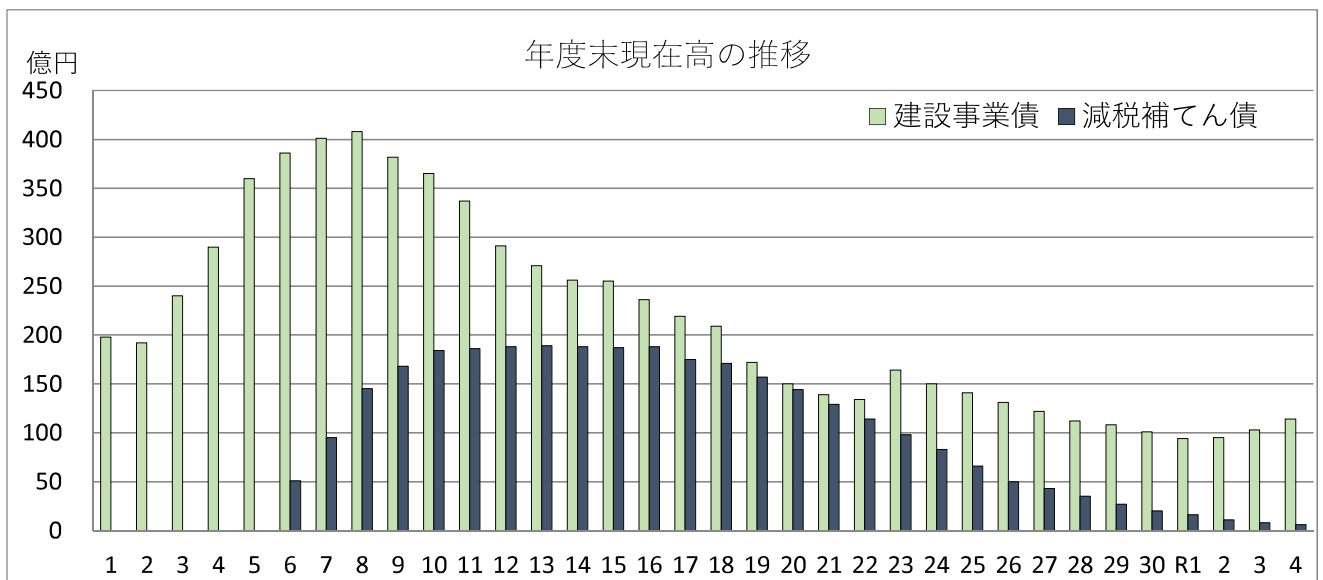
地方債の状況

地方債（特別区債）は、区が行う借入金です。

4年度は学校施設整備費として11億9千万円、社会福祉施設整備費として6億3千万の起債を発行しました。これにより、4年度末起債残高は120億（建設事業債：114億円、減税補てん債：6億円）となり、前年度より9億円の増となりました。

地方債（特別区債）を発行することで、多額の資金を一度に支出しないで済み、年度間の調整（世代間の負担の公平）を図ることができます。

※これまで地方債を発行しなかった年度は、昭和41年度以降8回（19・20・24・25・26・28・30・R1年度）です。

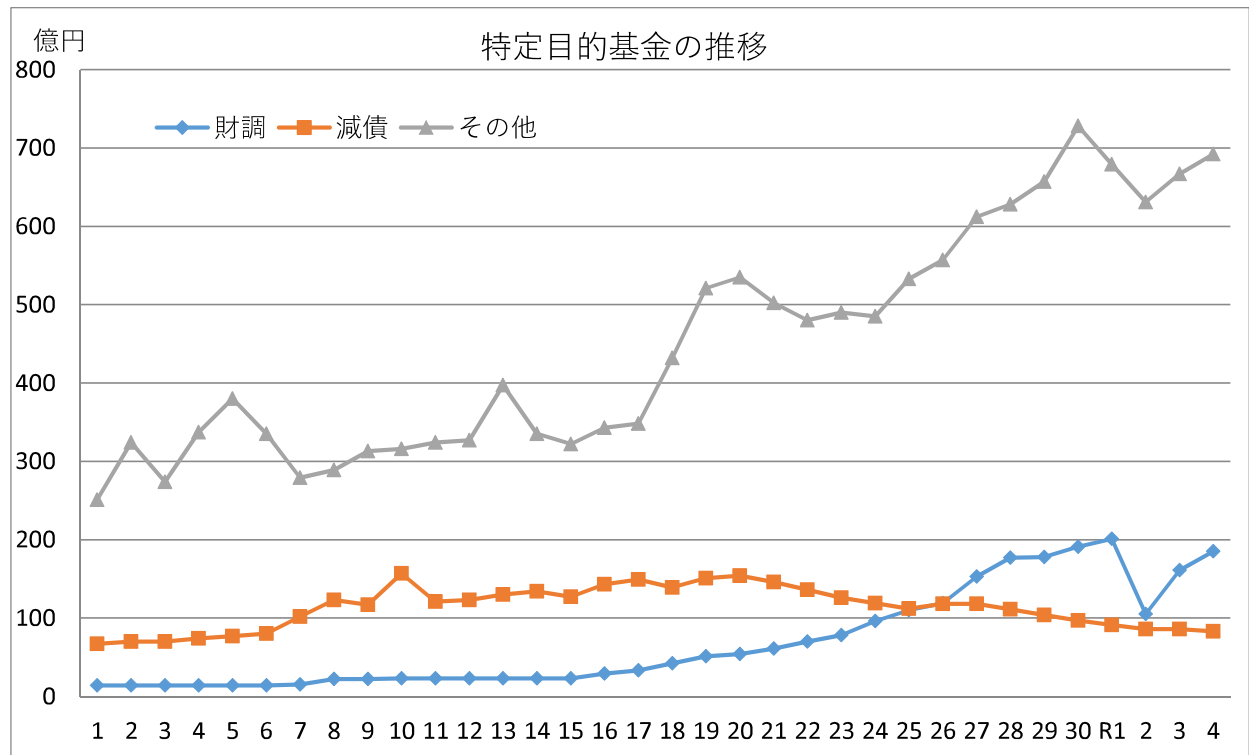


基金

基金の状況

基金は、区が行う「貯金」に当たるものです。

令和4年度末の特定目的基金現在高は960億円で、前年度と比べ46億円増加しました。これは、主に庁舎改築に向けた庁舎整備基金の積み立ておよび財政調整基金の積み立て等を行ったことによるものです。



《基金の種類と年度末基金現在高》

(単位: 億円)

基金名	設置年度	年度末現在高		目的
		R4年度末	R3年度末	
特定目的基金	財政調整基金	185	161	年度間の財源の不均衡を調整し、財政の健全な運営に資するため
	減債基金	83	86	区債等の償還財源を確保し、将来にわたる財政の健全な運営に資するため
	その他特定目的基金	692	667	公共施設整備や義務教育施設整備など、特定の目的のための運営に資するため
特定目的基金 計		960	914	

財務の健全性

令和4年度決算における財政の健全性

下記の4つの指標は、健全化判断比率です。「早期健全化基準」を上回れば、早急に財政再建が必要な状態です。また、「財政再生基準」を上回れば、既に財政破綻している状態です。令和3年度もすべての基準で下回っており、区の財政は引き続き健全であることがわかります。

●実質赤字比率

・品川区	△5.70%
・早期健全化基準	11.25%
・財政再生基準	20.00%

区の主たる会計である一般会計等を対象とした実質赤字額の標準財政規模に対する比率です。これにより、財政の規模に対する単年度の実質的な赤字額の割合を指標化し、財政運営の悪化の度合いを示します。

●連結実質赤字比率

・品川区	△7.28%
・早期健全化基準	16.25%
・財政再生基準	30.00%

一般会計等の実質赤字額に公営事業会計の資金不足額の合算を加えた連結実質赤字額の、標準財政規模に対する比率です。全会計を合算した単年度の赤字の度合いを示しています。

●実質公債費比率

・品川区	△4.2%
・早期健全化基準	25.0%
・財政再生基準	35.0%

借入金（地方債）の充当財源等が一般財源総額に対し、どの程度の割合になっているのかを示す指標です。公債費がどの程度一般財源等の使途の自由度を制約しているかをみることにより、財政構造の弾力性を判断するものです。

●将来負担比率

・品川区	△105.7%
・早期健全化基準	350.0%
・財政再生基準	-

特別区債現在高、債務負担行為に基づく支出予定額、退職手当負担見込額、公社・損失補償を行っている第三セクター等の負債など、区の一般会計等において見込まれる将来の負担の標準財政規模に対する比率です。

品川区会計基準と統一的な基準

品川区では、企業の財務諸表の表示方法と近い、「品川区会計基準」を採用しています。この「品川区会計基準」に基づき作成した財務諸表を組み替えて、「統一的な基準」の財務書類も参考として作成しています。「統一的な基準」による財務書類は、国（総務省）の要請により作成するもので、全国の自治体で作成され、類似団体との比較分析などに活用することができます。

品川区会計基準																			
東京都等の会計基準を参考にした「企業会計方式」を選択																			
品川区会計基準では、全ての収入と費用を行政コスト計算書に計上することで、行政コストが税収等によって賄われているかを示しています。																			
<財務諸表> 一般会計 国民健康保険事業会計 後期高齢者医療保険特別会計 介護保険特別会計 災害復旧特別会計																			
① 貸借対照表 <table border="1"> <tr> <th>資 産</th><th>負 債</th></tr> <tr> <td>流動資産</td><td>流動負債</td></tr> <tr> <td>現金預金</td><td>固定負債</td></tr> <tr> <td>固定資産</td><td>正味財産</td></tr> </table>		資 産	負 債	流動資産	流動負債	現金預金	固定負債	固定資産	正味財産										
資 産	負 債																		
流動資産	流動負債																		
現金預金	固定負債																		
固定資産	正味財産																		
② 行政コスト計算書 <table border="1"> <tr> <th>費 用</th><th>収 入</th></tr> <tr> <td>行政費用</td><td>行政収入</td></tr> <tr> <td>金融費用</td><td>特別区税</td></tr> <tr> <td>特別費用</td><td>国・都支出金</td></tr> <tr> <td></td><td>負担金、寄附金等</td></tr> <tr> <td></td><td>使用料・手数料</td></tr> <tr> <td></td><td>その他</td></tr> <tr> <td></td><td>金融収入</td></tr> <tr> <td>当期収支差額</td><td>特別収入</td></tr> </table>		費 用	収 入	行政費用	行政収入	金融費用	特別区税	特別費用	国・都支出金		負担金、寄附金等		使用料・手数料		その他		金融収入	当期収支差額	特別収入
費 用	収 入																		
行政費用	行政収入																		
金融費用	特別区税																		
特別費用	国・都支出金																		
	負担金、寄附金等																		
	使用料・手数料																		
	その他																		
	金融収入																		
当期収支差額	特別収入																		
③ 正味財産変動計算書 <table border="1"> <tr> <th></th><th>合計</th></tr> <tr> <td>前期末残高</td><td></td></tr> <tr> <td>当期変動額</td><td></td></tr> <tr> <td>固定資産等増減</td><td></td></tr> <tr> <td>区債等増減</td><td></td></tr> <tr> <td>当期収支差額</td><td></td></tr> <tr> <td>当期末残高</td><td></td></tr> </table>			合計	前期末残高		当期変動額		固定資産等増減		区債等増減		当期収支差額		当期末残高					
	合計																		
前期末残高																			
当期変動額																			
固定資産等増減																			
区債等増減																			
当期収支差額																			
当期末残高																			

統一的な基準																							
全ての自治体で統一的な基準による地方公会計の整備を国が要請																							
統一的な基準では、税収や国庫支出金などは行政活動の努力に対する成果として得られるものではないので、企業会計における株主資本と同様に純資産に計上しています。																							
<財務書類> 一般会計等財務書類（一般会計＋災害復旧特別会計） 全体財務書類 （一般会計＋災害復旧特別会計＋国民健康保険事業会計＋後期高齢者医療保険特別会計＋介護保険特別会計） 連結財務書類																							
① 貸借対照表 <table border="1"> <tr> <th>資 産</th><th>負 債</th></tr> <tr> <td>固定資産</td><td>固定負債</td></tr> <tr> <td>流動資産</td><td>流動負債</td></tr> <tr> <td>現金預金 （歳計外現金含む）</td><td>純資産</td></tr> </table>		資 産	負 債	固定資産	固定負債	流動資産	流動負債	現金預金 （歳計外現金含む）	純資産														
資 産	負 債																						
固定資産	固定負債																						
流動資産	流動負債																						
現金預金 （歳計外現金含む）	純資産																						
② 行政コスト計算書 <table border="1"> <tr> <th>費 用</th><th>収 益</th></tr> <tr> <td>経常費用</td><td>経常収益</td></tr> <tr> <td>臨時損失</td><td>使用料・手数料 その他</td></tr> <tr> <td></td><td>臨時収益</td></tr> <tr> <td></td><td>純行政コスト</td></tr> </table>		費 用	収 益	経常費用	経常収益	臨時損失	使用料・手数料 その他		臨時収益		純行政コスト												
費 用	収 益																						
経常費用	経常収益																						
臨時損失	使用料・手数料 その他																						
	臨時収益																						
	純行政コスト																						
③ 純資産変動計算書 <table border="1"> <tr> <th></th><th>合計</th></tr> <tr> <td>前年度末純資産残高</td><td></td></tr> <tr> <td>純行政コスト</td><td></td></tr> <tr> <td>財源</td><td></td></tr> <tr> <td>税収等</td><td></td></tr> <tr> <td>国都等補助金</td><td></td></tr> <tr> <td>本年度差額</td><td></td></tr> <tr> <td>固定資産等変動</td><td></td></tr> <tr> <td>無償所管換等</td><td></td></tr> <tr> <td>本年度純資産変動額</td><td></td></tr> <tr> <td>本年度末純資産残高</td><td></td></tr> </table>			合計	前年度末純資産残高		純行政コスト		財源		税収等		国都等補助金		本年度差額		固定資産等変動		無償所管換等		本年度純資産変動額		本年度末純資産残高	
	合計																						
前年度末純資産残高																							
純行政コスト																							
財源																							
税収等																							
国都等補助金																							
本年度差額																							
固定資産等変動																							
無償所管換等																							
本年度純資産変動額																							
本年度末純資産残高																							

品川区の財務諸表

品川区の財務諸表とは

品川区は、平成28年4月に「品川区新公会計制度基本方針」を決定し、平成30年度から「品川区会計基準」に基づき複式簿記・発生主義会計による財務諸表を作成しています。

品川区の財務諸表には、「一般会計」の他に、国民健康保険、後期高齢者医療保険、介護保険や災害復旧の「特別会計」が4つあります。

【一般会計貸借対照表】

(単位：百万円)

科目	令和4年度	令和3年度	科目	令和4年度	令和3年度
資産の部			負債の部		
流動資産	29,472	27,921	流動負債	2,224	2,164
現金預金	6,578	7,005	還付未済金	16	13
収入未済	1,511	2,336	特別区債	960	978
不納欠損引当金	△ 89	△ 78	賞与引当金	1,248	1,172
基金積立金	21,202	18,380			
短期貸付金	272	282	固定負債	22,293	22,354
貸倒引当金	△ 2	△ 3	特別区債	10,998	10,143
固定資産	2,308,737	2,291,645	退職給与引当金	11,295	12,211
行政財産	781,310	755,249			
普通財産	24,020	41,234	負債の部合計	24,517	24,518
重要物品	1,203	1,169	正味財産の部		
インフラ資産	1,405,535	1,401,460	正味財産	2,313,692	2,295,048
ソフトウェア	498	671	正味財産の部合計	2,313,692	2,295,048
建設仮勘定	16,734	13,852	負債及び正味財産の部合計	2,338,209	2,319,566
投資その他の資産	79,437	78,010			
資産の部合計	2,338,209	2,319,566			

【一般会計行政コスト計算書】

(単位：百万円)

科目	令和4年度	令和3年度	科目	令和4年度	令和3年度
費用			収入		
行政費用	164,549	162,357	行政収入	178,180	183,775
給与関係費	23,051	22,889	地方税・地方譲与 税・地方特例交付金 等	71,910	68,437
物件費・維持補修費	44,152	41,995	特別区財政調整交付金	45,094	45,972
扶助費・補助費等	64,324	66,219	国庫支出金・都支出金	47,281	56,198
投資的経費	12,819	12,103	分担金及負担金	2,309	2,381
繰出金	12,112	10,926	使用料及手数料	4,396	4,043
減価償却費・引当金繰入額	8,091	8,224	寄附金	1,888	86
金融費用	131	137	財産収入・諸収入	5,302	6,658
特別費用	388	5,398	金融収入	103	96
費用合計	165,068	167,892	特別収入	117	452
当期収支差額	13,333	16,431	収入合計	178,400	184,323

【一般会計正味財産変動計算書】

(単位：百万円)

科目	令和4年度	令和3年度
前期末残高	2,295,048	2,276,620
当期変動額	18,644	18,428
固定資産等の増減	5,330	2,091
特別区債等の増減	△ 18	△ 94
その他会計間取引	—	—
当期収支差額（調整後）	13,333	16,431
当期末残高	2,313,692	2,295,048

※「－」は計上金額なし、「0」は表示単位未満の計上金額あり

※百万円未満を四捨五入しているため、合計金額が一致しない場合があります。

統一的な基準による財務書類

統一的な基準による財務書類とは

「統一的な基準」による財務書類は、総務省の要請により作成するもので、全国の自治体で作成され、類似団体との比較分析などに活用されることが想定されています。

統一的な基準による財務書類は、「一般会計等」「全体」「連結」の3つの単位で作成します。一般会計等財務書類は、区の主たる会計である一般会計などが対象となります。

【一般会計等貸借対照表】

(単位：百万円)

科目	令和4年度	令和3年度	科目	令和4年度	令和3年度
資産の部			負債の部		
固定資産	2,310,395	2,293,373	固定負債	22,293	22,354
有形固定資産	2,227,502	2,211,663	地方債	10,998	10,143
事業用資産	818,800	808,212	長期未払金	—	—
インフラ資産	1,407,499	1,402,283	退職手当引当金	11,295	12,211
物品	1,203	1,169	流動負債	5,081	4,920
無形固定資産	1,797	1,971	1年内償還	960	978
投資その他の資産	81,096	79,739	予定地方債	—	—
			未払金	16	13
流動資産	31,479	29,757	賞与等引当金	1,248	1,172
現金預金	9,435	9,762	預り金	2,857	2,756
未収金	595	1,358	負債合計	27,374	27,274
短期貸付金	272	282	純資産の部		
基金	21,202	18,380	純資産	2,314,500	2,295,856
徴収不能引当金	△ 25	△ 23	純資産合計	2,314,500	2,295,856
資産合計	2,341,874	2,323,130	負債及び純資産合計	2,341,874	2,323,130

【一般会計等行政コスト計算書】

(単位：百万円)

科目	令和4年度	令和3年度	科目	令和4年度	令和3年度
費用			収益		
経常費用	164,679	162,494	経常収益	9,802	10,797
業務費用	88,845	84,651	使用料及び手数料	4,396	4,043
人件費	25,108	25,384	その他	5,405	6,754
物件費等	59,730	57,533	臨時利益	117	452
その他の業務費用	4,007	1,734	収益合計	9,918	11,249
移転費用	75,834	77,844			
補助金等	18,294	17,313	純行政コスト	155,149	157,334
社会保障給付	44,485	48,700			
他会計への操出金	12,112	10,926			
その他	943	905			
臨時損失	388	6,089			
費用合計	165,067	168,584			

【一般会計等純資産変動計算書】

(単位：百万円)

科目	令和4年度	令和3年度
前年度末純資産残高	2,295,856	2,278,120
純行政コスト(△)	△ 155,149	△ 157,334
財源	169,747	174,772
税収等	121,201	116,877
国県等補助金	48,546	57,895
本年度差額	14,598	17,438
資産評価差額	—	—
無償所管換等	4,064	299
その他	-18	—
本年度純資産変動額	18,644	17,736
本年度末純資産残高	2,314,500	2,295,856

連結財務書類

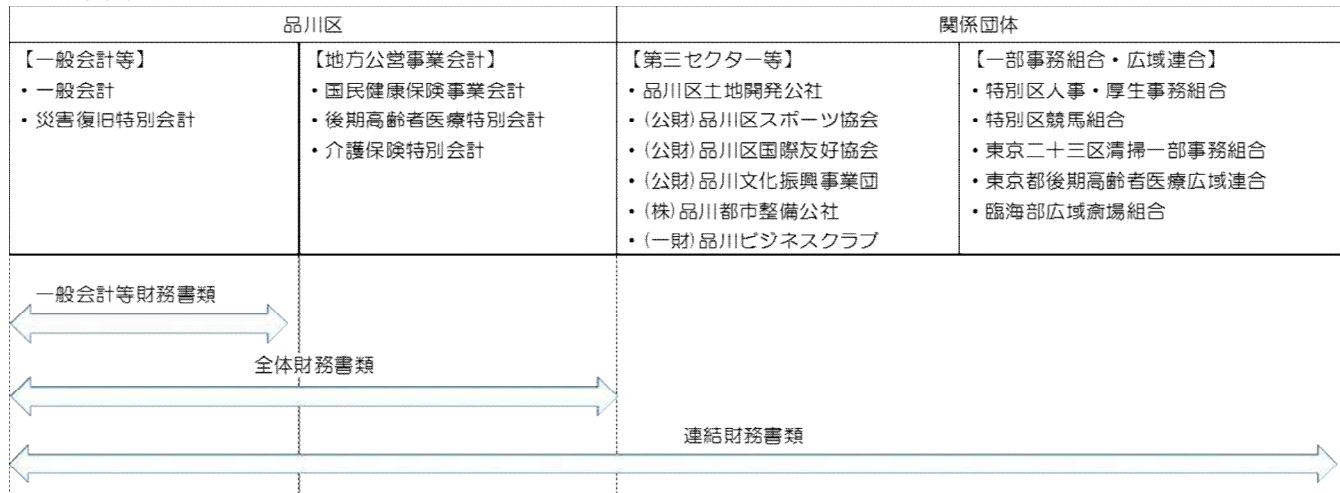
連結財務書類・連結対象範囲

連結の場合でも、一般会計等財務書類と同様に連結貸借対照表、連結行政コスト計算書、連結純資産変動計算書、連結資金収支計算書の連結財務書類4表を作成します。

地方自治体では、特別会計などに大きな負債を抱えているケースがあります。また、その団体の会計ではなく、出資先が大きな負債を抱えているケースもあります。連結することにより、このような一般会計等財務書類だけではわからなかった事実が把握できるようになります。

連結貸借対照表を一般会計等の貸借対照表と比べると、金額が増えていることがわかります。この増加額が、地方公営事業会計、一部事務組合・広域連合、地方三公社、第三セクター等の資産や負債の金額になります。

連結対象範囲



【連結貸借対照表】

【資産の部】	金額（百万円）		増減 （百万円）	【負債の部】	金額（百万円）		増減 （百万円）
	令和4年度	令和3年度			令和4年度	令和3年度	
固定資産	2,337,315	2,318,644	18,671	固定負債	26,473	25,808	665
有形固定資産	2,251,451	2,234,962	16,489	地方債等	14,249	12,757	1,492
事業用資産	842,665	831,421	11,244	長期未払金	102	0	102
インフラ資産	1,407,499	1,402,283	5,216	退職手当引当金	11,988	12,906	△ 918
物品	1,287	1,258	29	損失補償等引当金		2	△ 2
無形固定資産	1,845	2,125	△ 280	その他	133	144	△ 11
投資その他の資産	84,019	81,556	2,463	流動負債	5,906	6,290	△ 384
流動資産	40,515	38,988	1,527	1年内償還予定地方債等	1,148	1,775	△ 627
現金預金	14,019	14,306	△ 287	未払金	393	385	8
未収金	2,026	2,590	△ 564	未払費用	1	—	1
短期貸付金	271	280	△ 9	前受金	92	50	42
基金	23,085	20,205	2,880	賞与等引当金	1,329	1,248	81
棚卸資産	4	4	0	預り金	2,882	2,781	101
その他	1,364	1,817	△ 453	その他	61	51	10
徴収不能引当金	△ 255	△ 214	△ 41	負債合計	32,379	32,098	281
繰延資産	—	—	—	【純資産の部】			
				純資産合計	2,345,451	2,325,533	19,918
資産合計	2,377,830	2,357,632	20,198	負債・純資産合計	2,377,830	2,357,632	20,198

○令和4年度末の連結対象団体を含む品川区全体の総資産は2兆3,778億円（前年度比202億円増）で、将来世代に残している負債の総額が324億円（前年度比3億円増）となりました。

連単倍率の分析

●連単倍率とは

連結財務書類の数値が一般会計等財務書類の何倍になっているかを示す指標です。一般会計等財務書類の数値を1とした場合に、各項目が何倍になるかで判断しています。令和4年度の純資産連単倍率は、1.01となり1を上回っていて、健全な財政状況を維持しているといえます。

【貸借対照表】

(単位：百万円)

科目	連結 (A)	一般会計等 (B)	比較 (A) - (B)	連単倍率 (A) / (B)
資産	2,377,830	2,341,874	35,956	1.02
負債	32,379	27,374	5,005	1.18
純資産	2,345,451	2,314,500	30,951	1.01

【行政コスト計算書】

(単位：百万円)

科目	連結 (A)	一般会計等 (B)	比較 (A) - (B)	連単倍率 (A) / (B)
経常費用	263,645	164,679	98,966	1.60
人件費	26,981	25,108	1,873	1.07
物件費等	73,148	59,730	13,418	1.22
その他の業務費用	5,583	4,007	1,576	1.39
移転費用	157,933	75,834	82,099	2.08
経常収益	17,114	9,802	7,312	1.75
使用料及び手数料	5,085	4,396	689	1.16
その他	12,028	5,405	6,623	2.23
純経常行政コスト	246,532	154,878	91,654	1.59
臨時損失	495	388	107	1.28
臨時利益	121	117	4	1.03
純行政コスト	246,906	155,149	91,757	1.59

【純資産変動計算書】

(単位：百万円)

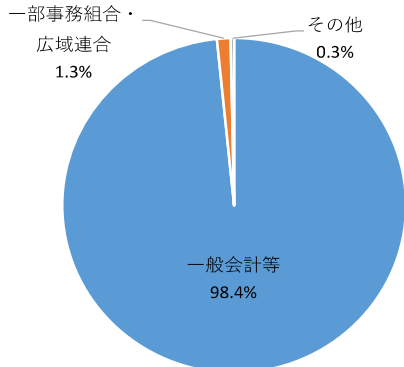
科目	連結 (A)	一般会計等 (B)	比較 (A) - (B)	連単倍率 (A) / (B)
前年度末純資産残高	2,325,533	2,295,856	29,677	1.01
純行政コスト(△)	△ 246,906	△ 155,149	△ 91,757	1.59
財源	262,136	169,747	92,389	1.54
税収等	162,953	121,201	41,752	1.34
国県等補助金	99,183	48,546	50,637	2.04
本年度差額	15,230	14,598	632	1.04
資産評価差額	—	—	—	—
無償所管換等	4,064	4,064	0	1.00
他団体出資等分の増加	—	—		
比例連結割合変更に伴う差額	625	—		
その他	△ 1	△ 18		
本年度純資産変動額	19,918	18,644	1,274	1.07
本年度末純資産残高	2,345,451	2,314,500	30,951	1.01

連結財務書類における各会計・団体の構成割合

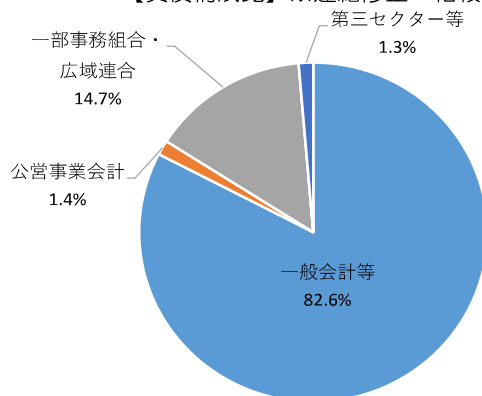
連結貸借対照表の資産・負債については、事業用資産やインフラ資産等の固定資産を多く保有する一般会計等が大部分を占めています。

連結行政コスト計算書の費用・収益については、一般会計等の他に、国民健康保険事業や後期高齢者医療事業を行う公営事業会計、複数の区の事務事業を行う一部事務組合・広域連合の割合が高くなっています。

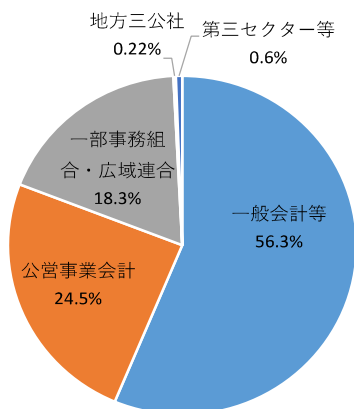
【資産構成比】※連結修正・相殺消去前



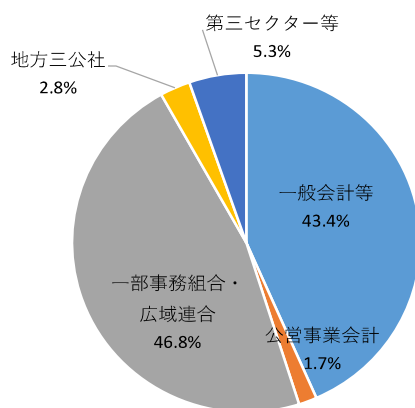
【負債構成比】※連結修正・相殺消去前



【経常費用構成比】※連結修正・相殺消去前



【経常収益構成比】※連結修正・相殺消去前



今後の財政の見通し

特別区税や特別区交付金など区内人口や所得の増加から増収が見込まれますが、社会情勢や景気の動向については引き続き注意を払う必要があります。

歳出にあたっては、老朽化に伴う公共施設改修などの投資的経費が今後増加していくことを踏まえ、基金や起債等を活用し、区政の喫緊の課題に取り組んでいきます。

今後も事業の一層の見直しの徹底や積極的な歳入確保など、着実に行財政改革を行い、これからも区政運営の安定と更なる健全財政の維持を推進します。